



源平の梅

# 青葉の笛だより

## 第 20 号

平成 29 年 3 月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

## 三つの味

ある有名な料理研究家のお祖父さんがおっしゃった「味には三種類ある」という言葉がありました。その三種類の味とは、前味と本味と後味の三つで、前味とは「そのお店にお客さんが入る前の店の掃除と、店に入った時の接客のあり方」。二つ目の本味とは「料理そのものの味」。三つ目の後味とは「お客さんが代金を払う時に、この料理でこの値段は安いと思われることだ」ということでした。

私たち真言宗の僧侶が日々お唱えする「理趣経」というお経の中に、仏様のみ教えは「初めにも善く、中にも善く、後にも善い」と書かれている所があります。「いつも、普段、絶えず、始終」等の意味で使う「しよっちゅう」という言葉は、この「初中後善（しよちゅうこうせん）」が「初中後」と短くなり、更に「しよっちゅう」に転訛したものだ、と、広辞苑では説明されています。

この話を味わうと、この三つの味は、

飲食業の商売だけではなく、より良き人間関係作りにも当てはまると思えてきます。もし会う前には心待ちにされ、会えば楽しくて意義深く、別れてからも心に残るような人になれたら、どんなに素晴らしいことでしょう。そのための前味とは、身だしなみを清潔にして、身の回りの環境を居心地よくすること。本味とは、物事に真摯に取り組み、人の話に丁寧に耳を傾け、その気持ちをプラスの方向に汲んであげること。それが出来れば、後味は必ず良いものとなるのでしょう。

また、この三つの味は自分の一日や一年の過ごし方にも当てはまります。しっかりと朝ご飯を食べ、私には関係ありませんが髪を整え、女性ならばバスや電車の中でなく家で化粧をして、仕事や勉強する体制を整えることが前味。その与えられた立場や勤めにまじめに取り組むことが本味。そして、その日の終わりに、嫌な事や失敗した事を明日への糧と出来るように考え、嬉しかった事や成しえた事への満足に浸る事が、良い後味となるでしょう。

今年も三月が過ぎましたが、このような毎日をこれから積み重ね、平成二十九年の大晦日の夕日に向かって感謝の心を込めて手を合わせ、一年最後の後味をじっくり味わえると良いですね。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

# 十三まいり

来る四月一日(土) 午後一時より、須磨寺本坊書院において、十三まいりの法要を厳修いたします。十三まいりとは、**数え年の十三歳**、つまり生まれた年の干支が初めて巡ってくる年に虚空蔵菩薩に智恵と福德と健康を授けてもらいにお参りする行事で別名「智恵詣」「智恵貫」とも言います。

虚空蔵菩薩とは、広大無辺の智恵と福德をお持ちで、それを総ての人に授けようとの御誓願のもとに、この世においてになる仏様です。

大人へと歩んでいく子どもの成長を喜び、仏様のご加護を祈る、古くから続く日本の習わしです。ご家族では是非お参り下さい。



記

日時 四月一日(土) 正午受付 午後一時開白  
場所 須磨寺本坊 書院  
御祈禱料 五千元(お一人)  
お申し込み 須磨寺事務所と須磨寺派各寺院  
お問合わせ 電話 〇七八―七三―〇四一六  
前日までにご予約をお願いいたします。

※法要当日にご都合のつかない方は、後日個別にお勤めをいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

# はなまつり

四月八日は、お釈迦さまのお誕生日です。日本全国で「はなまつり」と称して、お釈迦さまのご生誕を祝い、甘茶を誕生仏にかける灌仏会が催されます。

二千五百年以上前のインド、シヤカ族のシュッドーダナ王の妃であったマヤー夫人は、ある夜白い象が降りてきて自分の右わき腹の中に入る夢をみました。その後ご懐妊され、里帰りする旅の途中、ルンビニという場所でお釈迦さまをお産みになりました。お釈迦さまは、マ-



ヤ夫人の右脇から生まれ、七歩あるいて立ち止まり、右手を天に向け、左手を大地に向け、「天上天下唯我独尊」とおっしゃったといひます。お釈迦さまの誕生を喜び、世界中の花が咲き誇り、甘露の雨が降ったといひます。これが有名なお釈迦さま誕生の伝説です。この故事により、四月八日には花御堂の中に、誕生仏をお祀りし、甘茶をかける灌仏会が行われるようになりました。

「天上天下唯我独尊」とは、広い世界で自分が一番尊いという意味になりますが、それはお釈迦さまの命だけでなく、他の人々や動物、草木など、生きとし生けるもののすべての命が平等に尊いことを意味しています。生命尊重を意味するこの言葉こそ仏教の根本精神なのです。

須磨寺では、四月六日から八日まで灌仏会を行います。是非お参り下さい。

須磨寺 はなまつり(灌仏会)  
日時 4月6日(木)から8日(土)  
午前8時半から午後3時まで  
場所 須磨寺 宝物館前 休憩所

# はなまつり 奉納コンサート

お釈迦さまのご生誕を祝い、インド古典音楽の奉納コンサートが須磨寺垂細垂万神殿にて行われます。入場無料ですので、ご知友お誘いあわせてご参加下さい。

出演 **松本学&タカスダイスケ**  
日時 **四月八日(土) 午後一時〜二時三十分**  
入場 **無料**

場所 須磨寺 垂細垂万神殿(参道東側)  
曲目 青葉の笛、インド古典音楽、  
ネパール民謡

竹笛奏者 松本学さんとインドの太鼓タブラー奏者タカスダイスケさんによるインド古典音楽奉納演奏です。敦盛公への祈りをこめて、インドから持ち帰った竹で作った笛で青葉の笛を献奏。インドの竹笛バンスリとタブラーによる古典音楽演奏でお釈迦さま生誕の地インドへと思いを馳せます。また、ネパール震災の復興を願ってネパール民謡も演奏されます。

垂細垂の神様に囲まれた中で、笛と太鼓の音色に包まれて祈りの時間を過ごしていただけたらと思います。

大本山須磨寺

# 祈りの回廊——亜細亜万神殿

## 落慶一周年記念法要

来る四月二十五日（火）、「祈りの回廊—亜細亜万神殿」落慶一周年記念法要、並びにネパール大地震物故者三回忌慰霊法要を厳修いたします。法要では、陀羅尼（マントラ）を繰り返しお唱えします。日本や世界で起こる自然災害でお亡くなりになられた全ての方々の追福菩提を祈ります。ご参拝ご献香下さいますようお願い申し上げます。



法要風景



祈りの回廊



亜細亜万神殿  
ストウパ

亜細亜万神殿は、須磨寺参道東側にあります。東南アジア、特にカンボジアやインドネシアを中心に、アジアの秘宝とも言うべき三十八体の石仏と、合わせて壁レリーフ一点を展示しています。日本在住のネパールの方々の祈りの拠り所となるよう、万神殿の本尊として、ネパールカトマンズにありますスワヤンブナート寺院を模造したストウパが祀られています。ストウパの中には、釈尊誕生地ルンビニの砂が納められています。そしてストウパの前には釈尊誕生仏を祀り、周りには経文の入った摩尼車を巡らし、正面には仏足石を安置し祈りの中心となっています。

### 記

日時 四月二十五日（火）

午前十時開白

場所 亜細亜万神殿

## 第三十六回 須磨大茶会

普段着で気軽にご参加いただけるお茶会「須磨大茶会」が、今年も四月二十九日（土）に開催されます。須磨寺本坊席と寿楼席の二席がございます。

また同時開催で須磨寺書院にて一絃須磨琴演奏会も行われます。青葉がまぶしい須磨の春を、是非お楽しみ下さい。

日時 四月二十九日（土）午前九時から

午後四時まで（終席受付は午後三時）

場所 須磨寺本坊・須磨温泉 寿楼二階金波の間

主催 須磨大茶会運営協議会

席料 二千二百円（二席分、前売り券は二千円）

※須磨寺にて前売りのお茶券購入できます。

### 同時開催

## 一絃須磨琴演奏会

午前十時三十分

午後二時三十分

場所 須磨寺書院



# いろはまつり

今年も神戸真言宗連合会主催のもと、六月十五日（木）に三宮国際会館「こくさいホール」にて、いろはまつりが開催されます。

いろはまつりは、お大師さん・弘法大師空海さまのお生まれになった六月十五日に、ご誕生をお祝いする法会です。当日は法要式典だけでなく、御詠歌や稚児行列、お坊さんのファッションショー、お坊さんによる演劇などが行われます。どなたでもお参りいただけますので、皆様お誘い合わせの上ご来場いただき、心安らぐひとときをお過ごし下さい。

先着二千名様に記念品をお配りいたします。

日時 六月十五日（木）（午前九時～午後四時）

場所 三宮・神戸国際会館「こくさいホール」

（三宮そごう南側）

料金 入場無料

## お次第

午前九時

奉讃詠歌舞踊大会

午後十二時三十分

式典 法要（稚児行列）

午後二時

お坊さんファッションショー

僧侶の衣についての解説

午後三時

演劇 劇団あじのこ

※劇団あじのこには、朝倉経義（正覚院副住職）、小池陽人（本坊副住職）、富永龍弘（蓮生院住職）も出演しております。

※第一部奉讃詠歌舞踊大会には、須磨寺御詠歌講が出仕いたします。



## 須磨寺 句碑めぐり

香煙に 降りこむ雪や 初大師

播水

この句碑は、須磨寺書院の前に建っています。五十嵐播水先生が昭和十九年一月、須磨寺の初大師での作で、初大師（一月の縁日の事）を詠んだ秀句として知られています。時節柄、今日のような盛大な縁日ではなく、むしろ物静かな初大師であったと偲べれます。善男善女の願いを託した線香の煙が外置きの大香炉から絶え間なく立ち上がっています。折から降り始めた雪が、香煙に誘われるが如く、白煙の中に吸い込まれていく実景を素直に写生した平明な句であります。それが却って余韻を生み余情を深めています。歴史ある大寺の厳かな佇まいと、初大師の肅然とした宗教的情趣を余すところなく詠い上げ、信心の誠を捧げている信徒の切ない思いまでが、側々と偲ばれて抒情が深い句です。

（文章は境内解説板より抜粋）

